

平成 20 年度 大学院入学式告辞

大学院修士課程または博士課程への入学おめでとう。365 名の大学院生等を迎えることになりました。この中には、7 か国からの 29 名の外国人留学生と 85 名前後の社会人が含まれています。香川大学は君たちを心から歓迎します。

君たちの多くは、これからの大学院課程で今までとは異なるより高度な専門知識を身に付けようと思っているはずですが、社会人の方の一部は、昼間は通常の勤務をこなしながら、夕方からは新たな修学に挑戦しようと、多少の不安を覚えながら、夢を膨らませていることと思います。さらに、法曹界での活躍をめざしている人もいます。また、母国から遠く離れ、両親や家族のことを遠く思いながら、自分の将来のための挑戦に心を熱くしている留学生も多いでしょう。将来は博士課程に進み、研究者を志している人も多いと思います。博士課程に進んだ人は、一定期間内に学位論文をまとめなければならないプレッシャーを感じている人もいるかも知れません。このように見れば、君たちはさまざまな方向性と専門性をもった多様な集団のように見えます。しかし、修士課程及び博士課程で修得しなければならないものは、高度な専門知識と課題探求能力であります。私は、さらに大学院修了者には社会をリードし、社会からも尊敬されるような人格の養成を求めたいと思っています。

君たちは最先端の研究課題にこれから取り組んでいくことと思います。それは、ライフサイエンスやナノテクノロジー、情報通信、環境の分野であったりするでしょう。大学院では、特定分野の最先端の課題に君たち自身の力で取り組むことが重要ですが、常に考えてほしいのは君たちが取り組んでいる研究課題の位置付けであります。自分の研究課題が、例えば医学の中でどのような役割を果たして

いるのか、また工学の中でどのような役割を果たしているのか、自然科学全体に対してどのような影響を与えることができるのか、さらには人類の幸せのためにどのように役立とうとしているのかを常に考えていただきたいと思っています。それも自分ひとりだけではなく、周りの仲間とディスカッションしてください。そのような日常的活動が君たちの研究の幅を広げ、君たち自身の将来の発展可能性を大きくすることにつながることは間違いありません。

最先端の研究課題に取り組み、そこで得られる知識や研究成果に満足してはいけません。君たちの将来にとってもっとも大切なのは、最先端研究に関する知識ではなく、最先端研究に取り組み、その研究成果を取りまとめ、公表する過程で養われるさまざまな能力です。それらは探求力や解析力、企画力、表現力などです。私は、最先端の研究課題はそれらの能力をみがき、修得するための「場」と考えています。

自然科学系の大学院課程の修了者は、たとえ博士課程の修了者であっても、研究者の範疇に留まってほしくないとも思っています。どんどん自分の育った領域を飛び出し、行政企画担当者や政策立案者、ジャーナリスト、企業経営者などにどんどん進出してもらいたいと願っています。

21世紀に解決しなければならない課題として、地球環境劣化、人口増加、食料不足、貧困層の拡大がしばしば挙げられます。また、確実に進行しつつある少子高齢化社会に起因するさまざまな社会的課題もあります。一方では、21世紀は、新しい知識・情報・技術が飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」と言われています。特に、我が国にとっては人々の知的活動・創造力が最大の資源であります。したがって、地球規模的課題に新しい視点を持って挑戦し、諸君ら自身が

日本における知的活動・創造力の担い手になることをめざしてもらいたいと思います。

諸君らが本学での大学院生活を通じて、豊かな教養と高度な専門知識を備えた研究者や技術者だけでなく、社会のあらゆる分野で活躍できる有為な人材に育てられることを願っています。

平成 20 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古